

# ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

新連載

## 若手後継者の本音

松谷 圭一郎さん

全国酪農青年女性会議

野村副委員長に聞く!

第64年度(平成25年度)

事業計画案



酪農トピックス／

飛騨酪農農業協同組合女性部(飛騨酪農農業協同組合より)ほか

「国益を守れないTPP交渉参加断固反対緊急全国集会」  
約4,000人集結!!

人事異動

日本酪農見て歩紀(大阪府羽曳野市 大阪府立環境農林水産総合研究所)



4

2013 April No.571



全国酪農農業協同組合連合会



若手後継者の

本音

Vol.1

# 家族とともに、そして仲間たちと共に歩む酪農経営

長崎県大村市 松谷 圭一郎さん



圭一郎さん、奥さん、お子さん

## 概況

松谷牧場は、ながさき県酪農業協同組合（山下俊忠代表理事組合長）に所属し、経産牛30頭、育成牛10頭、繁殖和牛25頭を飼養しています。

主に経営に携わっているのは、経営主の茂さん、奥さんの留理子さん、長男の圭一郎さん、圭一郎さんの奥さんの茜さんです。

今回は、後継者として日々頑張っている圭一郎さん（25）にお話を伺いました。圭一郎さんは諫早農業高校を卒業し、中四国農業大学校に進学した後、平成20年、20歳で就農し今年で5年目となります。

## 就農のきっかけを教えてください

自分は小さいころから牛舎に入っ  
て遊び、父の仕事を見ながら育っ  
てきましたので、ずっと牛と一緒に

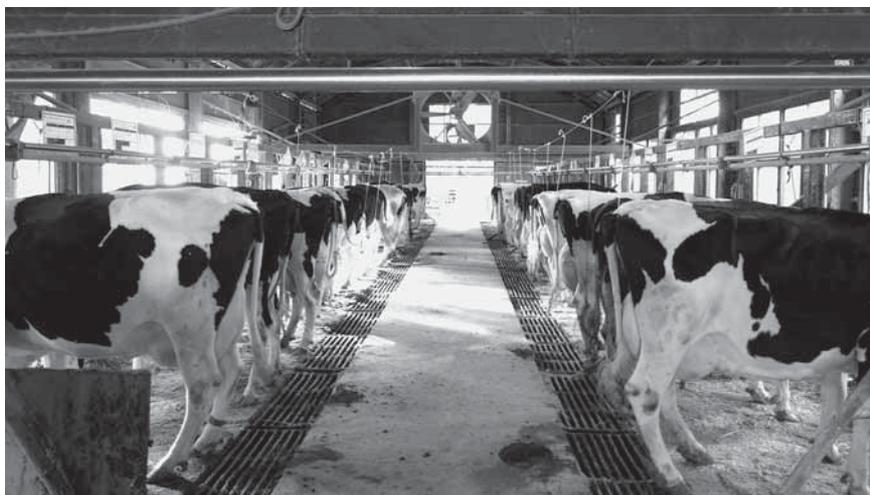


牛舎

育ってきたという感じです。そして父の傍で仕事を手伝うようになり、酪農という仕事に一層興味を持ち、自分でやってみたいという気持ちが強くなっていき、高校に進学する頃には酪農を継ごうと心に決めていました。

**就農してやりがいを感じていること、また苦労されたこととはありますか？**

今、酪農と和牛の複合経営を行っています。和牛の若手後継者を中心に構成している「牛丸会」という組織に入っています。牛丸会では定期的に勉強会や視察研修、会員の牧場巡回等を行っています。自分は



▶ 牛舎内

この牛丸会の先輩方に技術面で色々なことを教えてもらいました。

特に人工授精や受精卵移植、削蹄の技術は牛丸会の先輩方に色々と教わりました。こういった作業は誰かに頼むのではなく、本来自分でやるべきことだと思っています。自分の経営におけるモットーは「自分でできる事は全て自分でやる！」です。人に頼んでやってもらうことも出来

ますが、自分でやれば経費もかかりませんからね。勉強した削蹄や受精卵移植、人工授精、育成の技術、そして草地の管理の技術が身に付いてきて、今では自分で全てこなせるようになり、飼養管理を自分でコントロールできるようになつて来て楽しさ、やりがいを感じています。

でも就農してすぐの頃は大変でした。まだ技術的なものがしつかりと身に付いていませんでした。でも「自分で何とかしたい」という気持ちだけはとても強くて…その気持ちの方が先行してしまつて空回りしていた感じです。また自分が就農した頃は繁殖和牛の価格も下がつてきていた時期で経営的にも厳しい時期でしたから、本当にきつかったですね。また、その頃は父からも色々

と指摘を受けました。自分なりに何とかしたいという気持ちがありましたが、父は今まで積み重ねてきた経験もあつたのでしよう。よく喧嘩にもなっていました。

でも父は、無理に自分のやり方を私に押し付けるようなことはせず、やりたいようにやらせてくれたように感じます。だから自分も父の気持ちにこたえられるように頑張らねばという気持ちが一層強くなりました。そして牛丸会の活動を通じて、自分と同じ年代の後継者と交流することで、後継者として経営を良くしたいという気持ちが強くなりました。

色々思う所はあつたと思います。自分が全てを任せてくれた父の気持ち、そして牛丸会、酪農青年部の仲間、諸先輩方の指導が今の自分の大きな礎となつていると思えます。本当に感謝しています。

**今後の目標について教えてください**

飼料価格高騰等、ここ数年大変厳しい状況が続いています。またTTPP参加交渉表明で今後自分達の営む酪農はどうなっていくのか、気になります。

でも、自分としては立ち止まっていられないという気持ちです。こういう時だからこそ前向きに考えて

いかねばと思っています。とはいえ、急いでもいけないので、今の自分のやり方、考え方を基本として色々進めていきたいと思っています。まず飼養頭数の拡大が必要になってくる

と思っています。また、現在7町ある自給飼料生産基盤の拡充もはかっていると考えています。そして牛丸会、酪農青年部という素晴らしい組織活動の中で、自分と同じ世代の後継者と共に交流、研鑽を重ねて常に先進の技術を取り入れられるようにしたいです。和牛繁殖にも力を入れて乳肉複合経営のメリットを最大限に生かしていきたいと思っています。

**二人目のお子さんの誕生も間近とお聞きしましたが？**

そうですね。酪農経営ももちろん大事ですが「父親」としても、もっと頑張りたいと思っています。そのためにも、今後はヘルパーも活用し、子供と接する時間や、両親も休ませてあげるようにしたいと考えています。

若き後継者として、しっかりとした信念を持って酪農経営に取り組み、また地域の仲間たちとの交流、研鑽も実践しておられる圭一郎さん。取材中とても明るく、また何事にも前向きで自信に満ちあふれた表情がとても印象的でした。



## ■プロフィール

名前：野村 栄一（40歳）  
役職：関東甲信越酪農青年女性会議委員長  
平成22年8月～2期目：3年目  
全国酪農青年女性会議役員  
平成22年8月～2期目：3年目  
茨城県小美玉市で経産牛約500頭、哺育・育成  
約500頭飼養（うち育成400頭は北海道へ預託）

今回は、全国酪農青年女性  
会議 野村副委員長にお話  
を伺いました。

### 就農の経緯と現在の状況

小さいころから牛舎で手伝いをしてい  
たので、学生時代から「将来は酪農家にな  
るんだろうな」と思っていました。なの  
で、若いときにしかできない学生生活を  
謳歌し（笑）、嫁さん探しに外の会社に一  
度就職、無事嫁さんと結婚したのを機に  
就農を決意しました。

就農当時はつなぎで約130頭だった  
のですが、平成13年に、スケールメリット  
が必要との思いから増頭を進め、牛舎を  
つなぎからフリーストールへ移行し、24頭

# 今年の熊本の全国大会で 口蹄疫、震災の想いを 風化させず、再認識したい

ロータリーパーラーも併設しました。現  
在は経産牛が450頭ですが、これ以上  
この土地での増頭は厳しいかなと感じてい  
ます。酪農の本場である北海道でもやっ  
てみたいとの想いはありますが、この土地  
は離れたくないとも思いますし…。土地  
を生かしたエサ作りができれば、どこの  
土地でもやれると信じていますし、経営  
のやりようかなと思います。

現在は両親、妻、従業員13名と共に頑  
張っています。12歳の娘は、「この牧場  
の牛を自分の手で治してあげたい」との  
想いから将来獣医になりたいと言って  
くられていて、親として嬉しい限りです。

### 酪青女との関わり

平成22年に美野里酪農の青年部長を務  
めたのがきっかけで、その年にいきなり関

甲信酪青女の委員長、全国会議の監事に  
なりました。全国の役員・委員の方は強者  
ぞろいなので（笑）、全国の方と親交を深  
めることができて良かったと感じています。



24頭ロータリーパーラー



茨城県での父乳キャンペーンの様子



平成23年に開催した全国酪友フォーラム

全国大会は口蹄疫や震災で2年間中止になりましたが、地元の方から「こんな時だからこそ酪農家で集まりたい」と言っていたことを機に、23年には酪友フォーラムを開催し、励まし合う機会を作ることができました。「やって良かった」という感想が聞けたときは感無量でした。24年も成功裏に終わったので、今年もよりよい大会にしたいです。未だに運営側に回っている自分に戸惑いを覚えますが（笑）。

### 関東甲信越会議の特徴は？

消費地に近く、酪農家戸数も多いため、地域（組合）ごとに牛乳消費拡大活動を行っており、関東甲信越として大きく動くことは難しい面もあります。ただ、今年は東北会議と合同で渋谷での牛乳キャンペーンに参加させてもらう予定ですので、今後イベントを開催する上でノウハウを得られればと思います。他団体と一緒に活動していければ、とも感じています。関東甲信越は、地域の部長がそのまま委員となるため、1期で委員が変わってしまい、活動の長期的なビジョンが築きにくい点があります。その点も今後考えていく必要があると思っています。

### 今年の地域・全国大会に向けて

北海道の連続4冠（※1）阻止（笑）。何か1つでも関東甲信越で持って帰れば嬉しいですね。

また、今年は熊本で全国大会が開催されるので、隣県の宮崎県での口蹄疫への思いや防疫の徹底を再認識できればと思います。そして、震災も丸2年。復興が進んでいるとはいえ、帰れない、酪農ができない方たちもいらっしゃるの、その方たちにメッセージを送ればと思います。時間が経っても風化しないよう自分たち自身も再認識したいですね。

※1 経営の部、意見・体験の部、らくのうこどもキャラリ、酪農いきいきフォトコンテスト

### 酪青女で今後やりたいこと

全国の酪農家の方とネット上でつながる掲示板のようなコミュニティがあれば良いと思っています（※2）。機械の譲渡や飼養管理の質問などが気軽にでき、雑談もできるようなイメージですかね。全国約8,000人の組織だからこそ県を超えて多くの人とつながることができ、絆も深まるのではないのでしょうか。

※2 貴重なご意見として今後の参考にさせていただきます。

### 最後に一言

酪農が進んでいることがとても寂しいです。新規就農を考えている・今後の経営など悩んでいる方に対して、酪青女としてネットワーク等を駆使してバックアップができればと考えています。何か力になりたい。1人でも仲間を減らしたくない。酪農してほしいくないという思いが正直なところです。



庄巻の哺育小屋



野村牧場のフリーストール牛舎

# 第64年度(平成25年度)

# 事業計画案

(平成25年4月1日から平成26年3月31日)

本会は、第九次中期事業計画に基づき事業を展開していますが、2年目となる平成25年度事業計画は、3月5日開催の理事会で承認され、3月11日から全国6カ所で開催された『ブロック別会長・組合長会議』において報告・協議されました。最終的には7月25日に予定しています通常総会に諮るものとなっております。

以下に、第64年度(平成25年度)事業計画(案)の概要を報告いたします。

## I. 基本的考え方

酪農専門農協の全国連としての本会の果たすべき役割は、平成24年度に策定した『全酪連の将来ビジョン』に掲げたとおり、会員農協・酪農家が、地域社会に根ざした安定した酪農経営が継続でき、酪農後継者や新規就農者が従事しやすく将来に希望を持てる環境を作り、消費者が求める安全・安心で良質な国産生乳を安定して生産し供給する、これらのごとを1年でも早く実現し、かつ永続的に持続させるべく酪農生産基盤の維持・拡大を図るため、中期3カ年計画の基本

方針・基本施策に沿って基本方針を設定し、その達成に向け全力を尽くす。

## II. 基本方針

酪農経営及び酪農生産基盤の維持・拡大に寄与するべく、以下の事項について本会と会員が一体となり酪農生産現場を中心とした事業を展開していくこととする。

1. 酪農生産環境整備の推進
2. 酪農生産現場の生産性の向上
3. 酪農生産物の有利販売の強化
4. 組織運営の効率化と財務体質の強化
5. コンプライアンス経営の推進

## III. 重点実施施策

### 1. 酪農生産環境整備の推進

#### (1) 酪農家戸数維持への取組み

酪農家経営管理支援(DMS)システムの参加者数を拡大すると同時に、その経営診断で得られた経営データベースを活用し、会員農協と全酪連が一体となって、酪農家の経営体質の強化を図る。また、経営継承、規模拡大、新規就農、法人化の支援を行い、酪農家戸数の維持に貢献する。

#### (2) 廃業農家の抑制と後継者確保のため、酪農ヘルパー関連団体と協調した

ヘルパー事業の推進を図る。併せて、酪農後継者育成のため、全国酪農青年女性会議及び地域酪農青年女性(婦人)会議の様々な活動、並びに酪農発表大会の運営支援を通じて地域のリーダーを養成するとともに、酪農後継者同士の交流の場を設け育成を図る。

#### (3) 新規就農に関する活動を支援するため、関連団体との情報交換を充実させ、就農希望者や経営譲渡希望者への、制度・手続等の情報提供等の環境整備に努める。また、全酪連会報を活用し、情報提供を行う。

#### (2) 搾乳牛確保への取組み

① 北海道の受入れ体制の拡充と利用会員農協の拡大を図ることで販売預託事

業を拡充させるとともに、後継牛確保のために支援策を講じる。

② 庭先購買を効率的に行うための確かな情報収集に努めるとともに、初妊牛の安定供給を図る。

#### (3) 会員農協組織の強化

① 会員農協の組織運営に必要な法律や税務・財務会計に関する事項や、不祥事防止も含めた内部統制に関する事項についての研修会の開催や、会員農協組織の経営安定・強化に係る経営管理手法に関する事項についての情報提供を行う。また、研修会や全酪連会報・全酪連ホームページを通じて、必要情報を会員農協及び酪農家に広く提供する。

② 酪農専門農協として必要な組織機能を継続的に果たすため、各地域における実情や問題について詳細かつ正確に把握することに努め、それぞれの実態に合わせた組織再編整備を会員農協と協議・連携し推進する。また、組織再編整備進行中の地域・会員農協については進行上の助言、情報提供等に積極的に関与していく。

#### (4) 酪農関連全国組織としての強化

酪農関連全国組織に求められる目的を果たすための効率的な組織の在り方について、関係団体と協議する。

#### (5) 政策・制度への提言

政策・制度に関して幅広い意見収集に努め、いまだ回復が充分でない東日

本大震災からの復興及び原子力発電所事故による放射能汚染対策、また口蹄疫等家畜伝染病への防疫対策等について関係団体と一体となってその確立を目指す。

## (6) 自給飼料生産基盤確保への取組み

生産技術情報の提供や行政との連携を図り、自給飼料生産の拡大を支援する。

## 2. 酪農生産現場の生産性の向上

### (1) 生産性の向上のため技術指導の充実

① 「全酪連酪農セミナー」を有効的に活用し、地域単位での研修会を充実させ、技術普及に努めるなど、会員農協・酪農家への情報提供を積極的に行う。また、会員農協と連携し酪農現場での技術指導の強化を図るとともに、指導に際しては口蹄疫をはじめとした家畜衛生対策を徹底する。

② 職員の指導力強化に重点を置いた教育プログラムを実施し、指導購買の充実に努める。

③ 酪農技術研究所の充実と同時に、公的研究機関との連携を強化し、製品開発力の向上を図る。

### (2) 信頼できる生産資材の安定供給

① 推進担当職員の指導力向上と購買・畜産事業の連携・補完により、会員農協・酪農家のニーズを的確に汲み上げ、これに合致する製品の開発・供給を進めることによって、直営製品供給

数量の維持拡大に努める。また、必要に応じて銘柄整理を進め、飼料工場の稼働率向上に取り組み。加えて、エコフィードの利用拡大によるコスト低減に努める。

② 北米・豪州の牧草輸出業者及び輸入商社との連携を密にし、会員農協・酪農家が求める品質の輸入乾牧草、ビートパルプを安定的に供給する体制を強化する。また、海外産地視察を実施し、作柄等の現地情報を会員農協に迅速に提供することで共通認識を深め、供給の拡大に努める。

さらに、原子力発電所事故の影響で自給飼料の利用が不可能となった地域に対しては、行政等と協調して代替乾牧草を円滑に供給する。

③ 暑熱対策製品や移行期対応製品などの特色ある酪農生産資材を提案し、特に飼料添加物については重点的品目に位置づけ、供給の拡大に努める。

④ 直営工場と飼料製造会社3社に省エネ及び生産性向上関連設備の導入を行うとともに、他社からの受託数量の拡大に取り組み、工場コストの低減に努める。

⑤ 工場生産管理システムの製造管理、在庫管理、受発注管理機能を活用し、業務の効率化を図る。また、飼料工場GMPガイドラインに沿った業務マニユアルの更新を行い、製品の品質の維持向上を図る。

## 3. 酪農生産物の有利販売の強化

### (1) 生乳需給調整機能の強化

① 再委託販売事業の強化  
地域ごとの生乳需給を見極めながら、取引乳業者のニーズを捉え、当該指定団体との連携及び会員農協系乳業や関連乳業者との協力的体制の構築により安定供給を実施する。

### (2) 需給調整の実施と手法の追求

直営及び関連乳製品工場や会員農協系乳業の機能を活用し需給調整を実施するとともに、地域ごとの需給調整手法の取組み内容について、指定団体や関連組織と協議を進める。

### (2) 国産乳製品の販売推進

① 脱脂粉乳、バター及び液状乳製品の安定的販売  
生乳需給に応じた継続的かつ安定的な脱脂粉乳、バター及び液状乳製品の供給を実施し、顧客の要望に最大限応えるよう営業活動を行う。

また、乳製品の需給動向、他社の状況を的確に把握し、市場に迅速に対応することにより、計画的な物量と収益の確保に努める。

### (2) チーズの販売拡大

国産ナチュラルチーズ振興のため、国産チーズを利用したプロセスチーズの販売を強化し、直営工場の安定的な製造物量確保及び工場経営安定に資する。

また、受託先との協調関係強化を行うことにより既存受託物量の維持及び新商品の新規受託を推進する。

さらに、商品の改良を二層進展させることにより消費者のニーズ、信頼に応えることにより安定した事業拡大を行う。

### (3) 乳製品工場における品質管理の強化と生産コストの低減

#### ① 品質管理体制の強化

品質に関する基本的な考えは、「顧客第一」であることを念頭に置き、携わる職員個々の品質管理に対する意識向上を図り、現場管理力アップに努める。

また、現場での品質管理を適正に機能させるべく、「問題意識と改善意欲を持ち、自ら考え判断し行動する人材」の育成に取り組み、製造現場における品質管理並びに衛生管理に対する技能・意識向上を進める。

#### ② 生産コストの低減

製造ラインごとの人員配置の適正化や、生産コスト低減効果の見込める機械化の実施により、効率的な乳製品製造体制の構築に取り組み。

また、工程内事故及び製造起因クレームの発生防止策を強化することなどで、原料・資材ロス削減と製品歩留り率向上を図る。

### (4) 牛乳・乳製品の食育・消費拡大活動の実施

各地域で行われる牛乳・乳製品の食

育・消費拡大活動に対し、酪農青年女性会議の活動を通して積極的に協力する。

(5) 生体牛の取扱いの強化

酪農家の貴重な収入源となる子牛や経産牛等の副産物について、有利販売を行うために新規販売先の確保に努める。

4. 組織運営の効率化と財務体質の強化

(1) 共通管理機能の効率化

現業部門の業務活動をより充実させるための人員体制の見直しや共管部門の業務効率化について、具体的な検討を行う。

(2) システム再構築

「購買・酪農部門販売管理（新支所）システム」と「酪農部門生産管理システム」の本稼働を行う。

(3) 職員の育成

各部門協力のもと、現場教育及び研修等を活用する等、職員育成のスピード化を図り、人材不足の改善に努める。

また、各部門の重点実施施策及びアクションプログラムの達成に向けた人員配置に努める。

(4) 財務基盤の強化

不稼動資産の売却と保有資産の効率的活用により自己資本の充実に努め、財務体質の強化に努める。

(5) 財務報告の適正開示

財務報告の信頼性確保に向け会計基準（変更等含む）に適正・的確に対応する。

(6) 子会社等との連携強化

全酪連グループ内の事業補完や移管などの事業効率化に取り組み、全酪連グループの事業価値向上に努める。

5. コンプライアンス経営の推進

(1) コンプライアンス経営の推進

各部室・所場は、コンプライアンス推進規則に則り、コンプライアンス年間推進計画を作成し、計画に沿ってその推進に努める。

また、コンプライアンス経営への意識を高めるため、職員の階層別研修や様々な教育用映像コンテンツ（DVD等）を利用し、事業関連法をはじめとするコンプライアンスに関する学習に取り組む。

さらに、各部室・所場は、リスク・アセスメントに取り組む。

(2) 内部管理態勢の充実

事業目標達成とコンプライアンス経営推進のため、内部監査において業務内容をより的確に把握し業務改善の取り組みを一層進めることができるよう、内部監査実施体制の強化を進めることなどにより、内部管理態勢の充実に努める。

(3) 情報セキュリティ教育体制の見直し

eラーニング（インターネットによる学習管理システム）により、全役員を対象とした教育を実施する。

(4) 品質保証態勢の強化

① 全酪連の品質方針である安定した高品質の製品を提供し、品質事故を未然に防止するため、内・外部品質監査で提示されたリスクや内外の製品事故に対し、是正措置の確認や改善提案の提示を中心に、現業部門に対する牽制機

能を強化する。

また、クレーム情報の統括・集計・分析を行い、情報を共有化することでクレームの再発防止や類似クレームの発生防止を図る。

② ISO9001の要求事項に準拠して体系付けされている全酪連品質保証システムの継続的改善、及び現業部門に対する教育訓練の更なる充実に努めることにより、強固な品質保証システムを構築する。

(2) 年度別経常利益

(単位:百万円)

年 度	24年度見込み	25年度計画
経常利益	1,424	693

(1) 年度別売上高

(単位:百万円)

年 度	24年度見込み	25年度計画
酪農事業	10,786	11,526
購買事業	73,354	75,275
合 計	84,140	86,801

本所発

## 「第26回農山漁村女性の日記念の集い」が 開催される

平成25年3月7日(木)、東京都台東区の浅草公会堂において、「第26回農山漁村女性の日記念の集い」が開催されました。この集いは、毎年3月10日の「農山漁村女性の日」に合わせ、農山漁村女性の役割を正しく認識し、適正な評価への気運を高め、女性の能力の一層の活用を促進することを目的として開催されており、全国酪農青年女性会議は主催団体のひとつとして参加しています。今年は「今こそ見せよう！農山漁村の底力」と題し、受賞者・来賓を含む農業関係

者計763名が参加しました。

来賓の加治屋義人農水副大臣は林芳正農水大臣の祝辞を代読し、「攻めの農林水産業の展開には女性の能力発揮は不可欠」と挨拶をされました。

農山漁村女性・シニア活動表彰、農山漁村男女共同参画優良活動表彰の賞状授与及び活動報告の後、羽咋市役所農林水産課課長補佐 高野誠鮮氏による「ローマ法王に米を食べさせた男一限界集落からの脱却」と題した講演が行われました。羽咋市の過疎化・高齢化を止めるためにお酒の飲める女子大生を呼んだり、羽咋市の米をブランド化するためにローマ法王へお米を献上するなど、奇抜なアイデアで地域の活性化に取り組む話に会場は魅了されました。

最後に女性の社会参画の一層の促進や幅広い世代の女性の就業の活性化など6項目を宣言し、盛会のうちに終了しました。(K.S)



▲ 高野誠鮮氏



◀ 受賞式の様子



▼ 活動報告



TPP反対ののぼり

3月12日(火)、東京都千代田区の日比谷野外音楽堂にて、「国益を守れないTPP交渉参加断固反対緊急全国集会」が開催され、農林漁業者や消費者ら約4,000名が参加しました。冒頭に挨拶を行ったJA全中 萬歳会長は、「国の在り方を変えかねない協定であるのに、政府から十分な説明がなく、怒りと憤りが広がっている」とし、断固反対を訴えました。大会には、多くの国会議員が駆けつけ、消費者団体である主婦連合会事務局長や、JA福島女性部協議会フ

「国益を守れないTPP交渉参加断固反対緊急全国集会」  
約4,000人集結!!



▶ ガンバロー三唱

最後に「拙速に交渉参加に突き進むことには断固として反対」と訴えた決議文を採択し、ガンバロー三唱を力強く発声しました。大会終了後、首相官邸や国会議員会館の前を、「TPP断固反対！」と声を挙げながらデモ行進を行いました。



会場の様子 ▲▶



役立ち、同じ考えを持つ地域の仲間が“たすけあい精神”で何事にも取り組む姿が、石筵地域の特色であり、地域とのつながりが橋本牧場を支え、東日本大震災や東京電力福島第一原子力事故など、様々な困難を乗り越えられる力となっています。

結婚してはや40年が過ぎ、丈夫に産んでくれた両親に感謝し、60才を超えた私達夫婦でもまだまだ酪農をやっていると実感しています。これからは、夫婦二人で過ごす時間も大切に、新たなことにもチャレンジしていきたいです。

発表者のお二人の酪農に対する思いが熱く伝わり、また、夢や希望を大きく持ち続けられる酪農について、とても大きな魅力を感じました。

一昨年の東日本大震災や東京電力福島第一原子力事故により、今まで経験したことのない状況や困難の中、家族の支えや地域の仲間のつながりが酪農を支えています。原発事故後、農家戸数が急激に減少し、追い打ちをかけるように高齢化や後継者不足という大きな問題の壁が立ちはだかっている中、今泉さんのように、若手の酪農家として、本格的に就農



への夢を持ち続けたり、橋本さんのように長年の経験や酪農への思いが、福島県の酪農復興への心強い後押しとなります。発表頂きましたお二人の今後のご活躍、ご発展を期待しております。

午後には、酪農講演会が開催され、豊田通商株式会社 渉外広報部 渉外グループ グループリーダー 羽田裕氏、穀物油脂部 飼料原料グループ グループリーダー 阿川憲正氏より、「これからの世界経済と飼料情勢について」と題して講演頂き、世界経済が及ぼす影響や最新の飼料情勢を学びました。

(W.H)

飛騨酪農農業協同組合より

飛騨酪農農業協同組合女性部

— チーズ作り研修会を開催!! —

2月27日(水)に飛騨酪農協同組合内の食育研修室において飛騨酪農女性部(武藤晃子会長)のチーズ作り研修会が開催され、今年度は、講師に飛騨の生乳100%でチーズを作っている株式会社リアライン 代表の伊藤聖晃さんを招いてチーズ作り研修会を行いました。

牛乳を使用した料理を調理し、飲むだけでなく食べることで牛乳を消費する目的もあり、日頃食べたことのない多様なチーズを前に、なかなか会えない仲間が集合し、酪農情報の交換や近況を報告しあい、親睦を深める大変良い機会になりました。



▲ 料理研修の様子

研修会では「乳酸菌を使わないモッツアレラ」を自分たちの生乳で、先生から説明を受けながら、全員で料理を行いました。



▲ モッツアレラピザ



◀ モッツアレラ

参加した酪農家は熱心に受講され、「チーズの世界への第一歩になった。」「この味を息子にも伝えたい。」との声がありました。

最後に、この出来上がったモッツアレラチーズをそのまま食べたり、ピザに乗せオーブンで焼き上げ、おなか一杯になったところで、会話の絶えないにぎやかなチーズ作り研修会は終了しました。

(飛騨酪農農業協同組合 酪農部 丸山雅義)

福島県酪農協より

## 福島県酪農青年研究連盟主催 第60回酪農発表大会・酪農講演会を2年ぶりに開催!!

福島県酪農青年研究連盟（会長 鈴木 正隆）が主催する第60回酪農発表大会・酪農講演会が2月14日(休)郡山市日和田町の福島県農業総合センターにて、会員・関係者98名に参加頂き、2年ぶりに開催されました。

この大会は、県内各地の優秀な酪農経営の成果を発表し、それに基づく意見交換を行い、酪農経営の合理化・近代化を推進して本県酪農発展に資することを目的としており、今回で60回目を迎えました。

開催に先立ち、福島県酪農青年研究連盟 鈴木正隆会長より、「震災から約2年を迎え、思い起こせば、長かったなあと思う人、あっという間だったと思う人、気持ちはそれぞれかと思えます。そして、震災後、初めての酪農発表大会が開催され、経営発表の部、意見・体験発表の部を通して、震災後の思いや経営の発表を思う存分発表して頂きたい。午後の酪農講演会では、豊田通商(株)のお二人を講師に迎え、酪農の道筋、経営についての役立つ情報を今後の酪農経営へ生かすために学んで頂きたい」と挨拶がありました。更に福島県農林水産部畜産課 二瓶卓 課長（代読 矢内清恭 主任主査）、福島県酪農協 但野忠義 代表理事組合長より来賓祝辞を頂き、発表に入りました。

### ■意見・体験発表

#### 「我が家の牧場、これから～」

小野支部 今泉 洋さん

4人兄弟の3男として生まれ、私立大学を卒業後、他県へ就職し、兄弟もそれぞれの進路へ。一度世間に出て、社会経験や



▲小野支部 今泉 洋さん

経済的感覚を学ぶことも大切という父の考えもあり、家業を継ぐという予定はありませんでした。5年前に祖母が他界したことにより、牧場経営が大変な中、労働的にも手助けできればと思いから、仕事を辞め、酪農就農を決意。しかし、実際に牧場の仕事を始めてみたものの、施設の老朽化や高齢化など問題が山積みの状態で、自分なりにこうしたらいいのではないかという考えは持ちながらも、自分自身の経

験不足もあり、同じ作業を繰り返し、今ひとつ本腰を入れてやるという気が起きないままの日々を過ごしていました。

しかし、3.11の東日本大震災により状況は一変。施設の半壊、原発事故により、生乳廃棄、自給飼料給与制限使用禁止、風評被害などによる精神的苦痛を被り、毎日のようにテレビや新聞で報道される原発事故を見聞きする日々、気丈な父から「やめようか」という言葉が何度も出るほど、肉体的にも精神的にも大変な状況でした。

そのような大変な状況を乗り越え、改めて、「本格的に就農への道を目指したい」という思いを今、再認識しています。原発事故や風評被害に負けず、元の美しく勢いのあった頃を少しでも取り戻したい思いと、これからも両親と意見のぶつけ合いをしながら勉強し、自分の思う理想の牧場へ発展させていきたいです。

### ■経営発表

#### 「地域と共に歩む酪農経営～夫婦の歩んだ40年～」

県中酪農研究会 橋本 あきさん

青森県東北町の畑作農家の3女として生まれ、15才の時上京し、昼間は仕事、夕方からは都立4年定時



▲県中酪農研究会 橋本 あきさん

高校、夜は保母の夜間学校に通うという忙しい日々を過ごしていました。休みの日は気の合う仲間と各地の山々を登ることを楽しみにしていた中、磐梯山に登る機会があり、そのときに出会った旦那さんとはじめて見る牛との出会いが縁となり、遠距離恋愛を実らせ、昭和48年10月に結婚。取得した保母(保育士)の資格を活かすことなく家庭に入り、牛のお産や子牛の世話など初めての経験ではありましたが、とても面白く、この時の感動が今も続けられる原動力となっています。

石筵地域は、昭和25年に設立した「石筵牧野利用組合」と平成15年に設立した「石筵粗飼料機械利用組合」の2つの組織において、牧草ロールサイレージと稲WCSの生産・収穫・利用までの一貫した体制が整備され、労力軽減・コスト削減に大いに

大阪支所発

徳島県酪農の平成24年度酪農講習会が開催される

徳島県酪農業協同組合は、同県畜産協会と共催で平成24年度酪農講習会を開催しました。今年3月6日に石井町地域防災センターにて会員酪農家40余名が参加しました。当日は、徳島県家畜防疫衛生センター所長立川進氏が「持続できる酪農経営のために」と題して講演を行いました。講師自身が家畜衛生保健検査所勤務時代に受精卵移植に力を注いだ経験に基づき自家授精の推進について、酪農家の多くが保持している人工授精師免許の積極的な活用、つまり農家自身が種付けを行うことを推奨し、



▲ 山下組合長挨拶

受胎に関与する牛側の要因と人的要因に分けて技術面から詳しく解説されていました。又雌雄選別精液・ETの活用についても実績を示して取り組むべきと講演を締めくくりました。

講師熱演 ▶



◀ 受講風景

また、県庁畜産課福見担当が、平成25年度の県の補助事業「とくしまミルク&ミート増産事業」の概要を説明され、乳用牛増頭や性別別精液を利用し効率的に乳牛増産に繋がりたいと話されました。

(S.T)

大阪支所発

第1回「牛乳が好き。」MILK JAPANフォトコンテスト作品募集

中国四国農政局は、中四国地域在住の方を対象に4月1日～5月11日迄の期間で消費拡大や酪農理解醸成等を図る観点からフォト作品を初めて募集します。募集は、A牛乳の部、Bふれあいの部及びC酪農教育ファームの部と3部門を設け、それぞれ最優秀等作品を表彰する予定です。

弊会は、本企画に賛同し後援しています。応募に関する詳しい要領は、中国四国農政局ホームページにアクセスしてご確認ください。

募集部門	A 牛乳の部	牛乳を飲んでいる写真。なお、商品を限定できるものは審査対象外となりますので、お気を付けください。
	B ふれあいの部	乳牛とふれあっている写真。なお、牧場での写真撮影の際は、牧場の責任者に許可を得た上でその指示に従ってください。
	C 酪農教育ファームの部	酪農教育ファームでの写真。対象牧場は(社)中央酪農会議のホームページ <a href="http://www.dairy.co.jp/">http://www.dairy.co.jp/</a> →日本の牧場マップ参照

第1回「牛乳が好き。」MILK JAPAN フォトコンテスト

☆募集する写真☆

A 牛乳を飲んでいる写真 B 乳牛とふれあっている写真  
C 酪農教育ファームでの写真

★募集期間★  
平成25年4月1日(月)～5月11日(土)(消印有効)

主催：中国四国農政局  
共催：中国生乳局内農産物振興課、中国生乳局内農産物振興課畜産部、  
社団法人中央酪農会議  
協賛：全国酪農協同組合連合会、鳥取県牛乳産出協議会、島根県牛乳産出協議会、  
岡山県酪農青年会議所、広島県牛乳産出協議会、山口県酪農青年会議所、  
山口県酪農青年会議所、愛媛県牛乳産出協議会、高知県牛乳産出協議会

中国四国農政局ホームページにも掲載しています。  
TEL 086-221-1111 FAX 086-221-1112

■応募方法

プリントサイズはA4とし、作品の裏面に住所、氏名、作品のタイトルを記入した上で、下の応募票に必要事項を記入したものを添付して提出してください。

福岡  
支所発

## 「第56回 佐賀県酪農婦人の集い」 開催される！

去る2月22日(金)、佐賀県酪農婦人部連絡協議会(川久保美代子会長)、JA 佐賀畜産振興協議会(中野吉實会長)主催の「第56回佐賀県酪農婦人の集い」が、佐賀県唐津市の「唐津シーサイドホテル」において、約150名の酪農婦人及び関係者が参加し開催されました。

佐賀県では酪農婦人の皆さんが中心になって、乳質改善や牛舎周辺の環境美化等に取り組まれており、乳質改善共励会、生乳需要期増産表彰、牛群高能力表彰、牧場花いっぱいコンクールの表彰式が行われ



▲ 中野会長挨拶

ました。その後「体験発表」が行われ、「酪農って面白いな～」と題して玄海町の福井千尋さんが発表されました。最後には、佐賀県酪農婦人部連絡協議会西村和子副会長より「婦人の集い宣言」が読み上げられ、会場から



▲ 表彰を受けた皆さん



▲ 花いっぱいコンクール写真



▲ 体験発表

は大きな拍手をもって採択されました。

昼食をはさんで午後からは、佐賀ユーモア協会事務局長の音成日佐男氏により「笑いと健康～笑って元気で長生き～」と題した講演がありました。題名の通り、所々に駄洒落を交えたとても楽しいお話で、会場からは笑いが終始絶えませんでした。

佐賀県酪農を支える女性の底力と歴史を感じるすばらしい「酪農婦人の集い」でした。

(Y.K)

福岡  
支所発

## 小林市酪農青年女性連絡協議会 宮崎日日新聞農業技術賞受賞祝賀会を開催！

本誌2012年11月号「グループ活動紹介」のコーナーで紹介しました、宮崎県的小林市酪農青年女性連絡協議会が、この度宮崎日日新聞農業技術賞を受賞し、その祝賀会が2月21日(木)小林市「ガーデンベルズ」にて盛大に開催されました。



▲ 肥後市長挨拶

同賞は、宮崎県の農業振興と発展を目的に昭和34年1月に制定され、55回目となる今回は地域農業をけん引する畜産・野菜の6部門から1法人、8団体が表彰を受けました。



▲ 黒木会長挨拶

同協議会は牛乳消費拡大運動、また花いっぱい運動等の環境美化運動やチェックシートによる生乳生産管理を通じて安心・安全の美味しい牛乳のPRに取り組まると共に、本誌でも紹介した「モーモー

スクール」を企画立案され、小林市内12の

小学校を訪問し、酪農に関する授業やバター作り、搾乳体験等を行い子供たち、そして保護者、学校関係者等に幅広く酪農の素晴らしさをPRしました。これらの取組が、地域の畜産を力強くけん引する事例として高く評価され、今回、栄えある同賞を受賞されました。

祝賀会は同協議会部員の酪農家、関係機関より約60名が出席、冒頭で同協議会黒木英教会長が挨拶を行い、今回の授賞の喜びと今後の抱負を力強く語られました。続いて肥後正弘小林市長、宮崎経済連川上雅治酪農飼料部長、全酪連福岡支所 直井順一南九州事務所長が来賓挨拶を行いました。

そして、こばやし農業協同組合 坂下栄次代表理事組合長の乾杯の発声により祝宴は幕を開けました。会場は出席者の皆さんの喜びの声が終始止むことなく、大変盛り上がりました。

(Y.K)

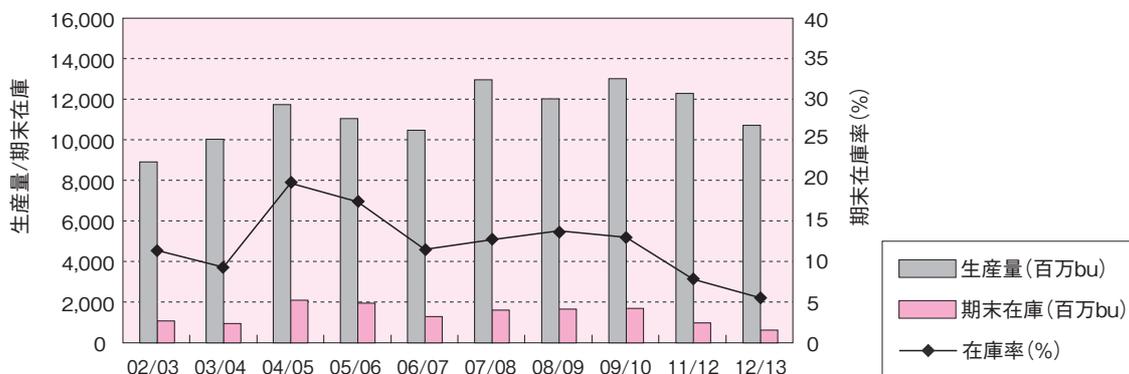


▲ 賞状

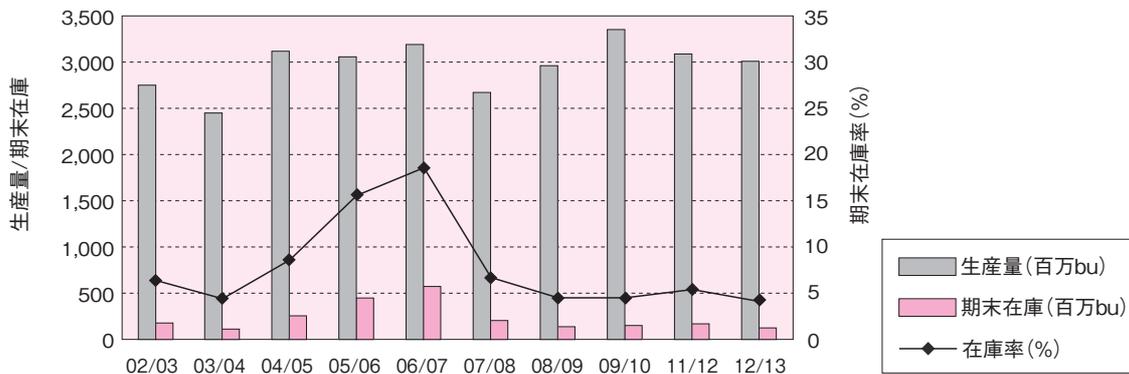
# 原料情勢 平成25年3月

3月8日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	<p>【11/12年産】 作付面積91.9百万(前月91.9百万) エーカー、単収147.2(147.2)bu/エーカー、生産量123億6,000万(123億6,000万)bu、総需要量125億2,700万(125億2,700万)bu、期末在庫9億8,900万(9億8,900万)bu、在庫率7.9(7.9)%。</p> <p>【12/13年産】 作付面積97.2百万(前月97.2百万) エーカー、単収123.4(123.4)bu/エーカー、生産量107億8,000万(107億8,000万)bu、総需要量112億6,200万(112億3,700万)bu、期末在庫6億3,200万(6億3,200万)bu、在庫率5.6(5.6)%。</p>
トウモロコシ相場動向	<p>2月は、期末在庫の上方修正や大豆・小麦の値下げ、13/14年産の見通しが明るいことにより相場は下落し、680¢台まで値を下げた。現在は少し値を戻し700¢台に回復している。今後のシカゴ相場は、南米産の収穫が本格化するものの、米国产の12/13年産の期末在庫が希薄なことから堅調に推移するものと思われる。<b>3月28日に発表される米国農務省の四半期在庫統計(3月1日時点の全米在庫、2013年産・州別の作付面積予想)が相場の鍵を握ると思われる。</b></p>
国内産大豆粕	<p>米国产大豆需給予想の12/13年の期末在庫見通しは1億2,500万(1億2,500万)bu、在庫率4.1(4.1)%。期末在庫に変化はなかったが、アルゼンチンの生産量の見込みが予想より低下しなかったため、1,400¢後半の値動きとなっている。国産大豆粕発生量は若干増える可能性があるものの以前低調なままである。しかし、需要も減退していると思われ、需給バランスはそれほど崩れてはいない。輸入大豆粕はEU、中近東、東南アジア等の需要が旺盛なことから現地価格がほとんど下がっていない。今後、南米の流通が滞れば、米国の期末在庫の低さが再認識され、更に値を上げる可能性がある。国産大豆粕価格も、シカゴ相場が堅調に推移し、為替が大幅に円安に振れていることからかなり強含んでいる。</p>
槽糠類	<p>フスマの発生量は横ばいで推移する見込み。需給は極めてタイトであったが、必要数量が確保できず使用量が減少した影響や輸入品の入船により、一時期より需給は改善した模様。今後も、配合割合が増加傾向になれば玉不足になる可能性があり、十分注意が必要。グルテンフィードは発生量が増加傾向であるが、需要も堅調なため需給は若干締め気味。年末までにまとまった数量が輸入されているようで、一部の港を除いては受け渡しに問題がない見込み。しかし、輸入品が割高になりつつあり、今後の入船が減少する可能性があることや、フスマの代替で使用量が増える可能性もあり、注意が必要。</p>
海上運賃	<p>ここ数か月、悪天候の影響で出足の悪かった豪州産石炭需要が回復、また南米産穀物の輸出が本格化することから需給の引き締めが予想され、強気の相場。原油市場はニューヨーク市場株価の高値更新や米国の経済指標での失業率の改善など、景気の回復に合わせて強含みの展開となっている。</p>

### 米国产トウモロコシ生産量と期末在庫の推移

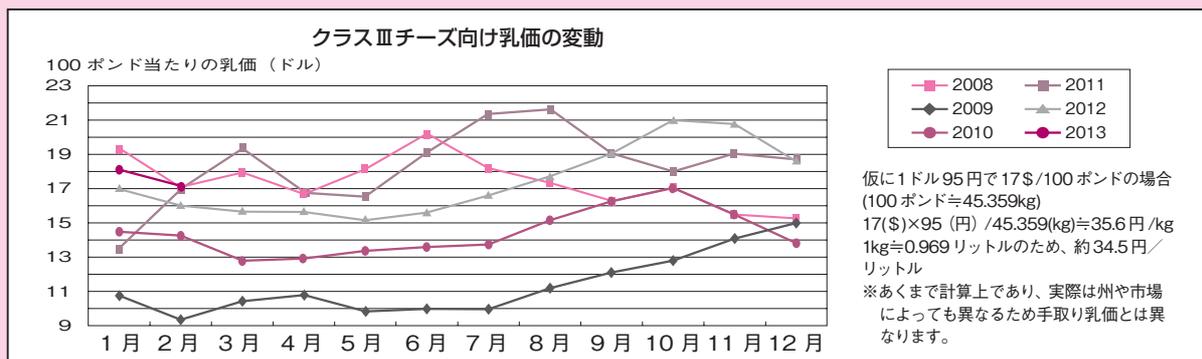


### 米国产大豆生産量と期末在庫の推移



# 輸入粗飼料の情勢 平成25年3月

北米コンテナ船フレート	2月6日まで延期となっていた北米東海岸でのストライキ実施は回避されたため、西海岸に貨物が集中する可能性から予想されていたコンジェスチョン・チャージ（混雑に対するチャージ）も導入は回避された。WTA加盟の船会社から1月15日付けで発表されたGRI（基礎レート）\$200値上げは3月1日に延期となっていたが、さらに4月1日に延期となった。各船会社とも、世界的な不況を背景にコンテナ部門の採算悪化が続いている。需給バランスが崩れることを懸念して、海上運賃の大幅な値上げには踏み切れない一方で、自社で負担していた様々なサービスを停止しようとする顧客へ求めている船会社が増えている。輸出（米国）側では、シャーシの無料貸出を停止する船会社が増えつつある。
米国の乳価動向	乳製品の相場価格上昇にともない、昨年6月から5ヶ月連続して値上げで推移していたが、12月以降は再び低調に推移している。飼料コストも値上がりしているため、米国内酪農家は引き続き厳しい経営を強いられていると言われており、米国内アルファルファの産地価格・情勢にも大きな影響があるため、米国の酪農情勢・乳価動向については注意が必要。
ビートバルブ	【米国産】産地では製糖作業が順調に行われており、春先まで生産が続く予定。昨年11年産よりも作柄は良いため、生産量は例年並みに回復した模様。ただし11年産の繰越在庫がない状態でシーズンに突入し、欧州や日本からも引き合いが強いことから、13年産も12年産の繰越在庫がない状態でスタートすることが予想され、引き続き高値で推移する見込み。
アルファルファヘイ	【ワシントン産】産地価格の高止まりとフレート価格差から、中国向けについてはカリフォルニア産へシフトしていると伝えられていたが、円安の影響により日本向けについても徐々にカリフォルニア産へ需要がシフトしていると伝えられている。UAE向けについては、これまで通り安定した出荷が続いている。米国内酪農家からアルファルファの引合いが低調に推移すると予想される一方、トウモロコシや大豆、ジャガイモなどの作物の相場価格が安定していることから、13年産の作付面積は減少すると一部では予想されている。 【カリフォルニア産】PNW産アルファルファの産地価格の高止まりとフレート価格差から、UAEや中国向けはインベリアルバレー産の引合いが強く、雨当たり品はUAE向けに多く出荷されていると伝えられている。北カリフォルニア産も、UAEや中国向けのみならず、日本や韓国からの引合いも強まっている模様。インベリアルバレーの2/15時点での作付面積は前年対比103%の132,904エーカー。産地では13年産の1番刈の収穫が始まったが、水分が高く、輸出向けには適さないため、ほとんどが米国内向けとなる見込み。引合いも落ち着いていることから価格は弱含みで推移することが予想されるが、2番刈以降の他国の動きには注意が必要。
チモシー	【米国産】ワシントン州では、雨当たりの影響から酪農向けプレミアム品や中間グレード品は確保が非常に困難な状況であり、需要は引き続きタイト。近年の順調な需要を受け、生産コストに対して高く売れており、産地では「儲かる」農産物として定着しており、13年産は作付面積が増えることが一部では予想される。 【カナダ産】産地では、ともに1番刈の収穫時期に雨当たり被害が発生したためハイグレード品の発生量は限定的である。米国産1番刈の状況を受けて、中間グレード品でさえも確保が非常に困難な状況となっており、産地価格は高値で推移している。チモシーの他に、産地ではキャノーラ（菜種）などの穀類も多く作付けされている。13年産の作付面積の増減は穀類の相場価格によっても変化があると考えられている。
スーダン	【インベリアルバレー産】12年産は、茎細のハイグレード品の発生量が限定的となり、中間グレードやローグレード品の発生量についても、降雨の影響で発生量が予想より大きく減少する結果となっている。そのため、かろうじて雨に当たっていない軽く雨当たりしたスタックにも、グレードを問わず引合いが集中している。近年の順調な需要を受け、産地では儲かる農産物として定着しており、13年産は早播きスーダンの作付面積が増えることが予想されている。しかし、ここ数年話題になっていなかったインベリアルバレーでの農業用水の使用制限について、実施強化が懸念され始めていることや、スーダン種子価格が昨年より落ち着いているものの高値で推移していることから、作付面積は減ることも予想されている。
クレイングラス	1、2番刈は良品の発生が多かったが、3番刈は雨当たり被害や刈遅れ気味となったスタックも多く、4番刈についても湿度の高い気候の影響で、ブリーチや茶葉が多めの傾向となっている。早くから11年産の在庫もなく、3番刈以降の作柄が良くない状況下で韓国向けからの引合いも強くなっているため、産地価格は引き続き堅調に推移している。12年産のインベリアルバレーの作付面積は2/15時点で前年対比115%の16,270エーカーであり、近年の順調な需要を受けて、13年産は生産量が増えると予想されている。しかし、前述の通りインベリアルバレーでの農業用水の問題も懸念されており、注意が必要。
オーツヘイ	西、南、東の全ての輸出向け産地で、ハイグレード品がほとんどで中間・ローグレードの発生量が少なく、雨当たり被害を酷く受けた11年産と真逆の作柄となった。単収は例年よりも20～25%程度減少しているため、全体の生産量も昨年より減少していると見込まれている。産地価格については、①相場価格が高値で推移している小麦やキャノーラ（菜種）等との作付の競合、②北米の輸入牧草産地と同様にオーツヘイの買付け合戦が起きてしまっていること、③経済が安定しており通貨の豪州ドルが強いこと、④中間・ローグレード品が極端に少ないことから、12年産価格は相対的に値上がりすることが予想されている。
豪州産小麦（ウィート）ストロー	各産地とも12月上旬から、小麦ならびに小麦ストローの本格的な収穫が始まった。オーツヘイと同様に、生育中に少し干ばつ傾向の気候が続いたため、単収は非常に少ない作柄となっている。長さが求められる敷料用ストローは、発生がかなり限定的になると見込まれている。また、11月下旬に西豪州でまとまった降雨があり、雨当たり品も多く発生している模様。中国での口蹄疫の影響で豪州産ストローの引合いが非常に強まっており、日本への輸入も昨年11、12月は約4,800tだったのに対し、今年1月は10,082tにまで増加している。12年産は単収も発生量も少ないため、今後は潤沢に船積みされるのが難しいと見込まれているが、急激な需要増を背景に、産地価格は以前よりも高騰して推移している。



# 生乳受託販売乳量

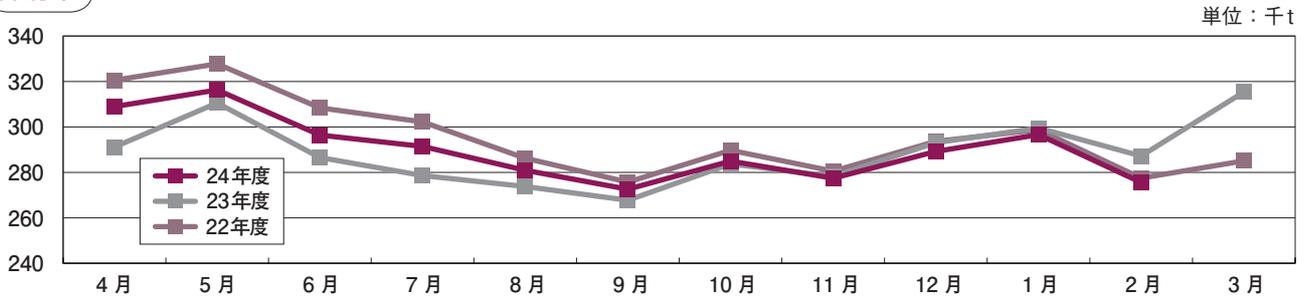
## 受託販売乳量

全国	572,331t で、前年同月に比べ 18,194t(3.1%) 減少した。	都府県	275,576t で、前年同月に比べ 11,648t(4.1%) 減少した。
北海道	296,754t で、前年同月に比べ 6,546t (2.2%) 減少した。		

### 北海道

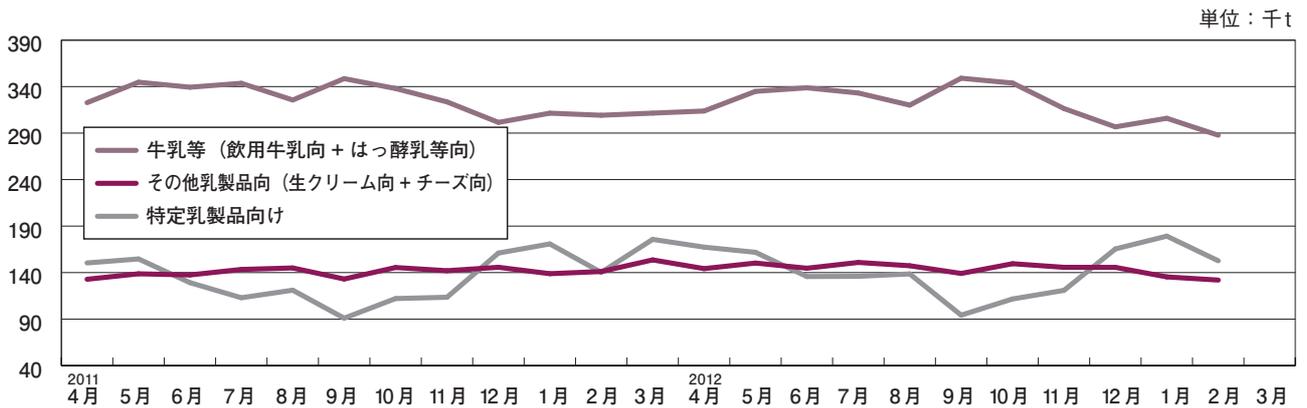


### 都府県



## 用途別販売数量

飲用向	251,266t で、前年同月に比べ 18,729t(6.9%) 減少した。	チーズ向	35,712t で、前年同月に比べ 6,976t(16.3%) 減少した。
はっ酵乳向	36,420t で、前年同月に比べ 2,753t (7.0%) 減少した。	特定乳製品向	152,695t で、前年同月に比べ 12,474t(8.9%) 増加した。
クリーム向	96,236t で、前年同月に比べ 2,210t (2.2%) 減少した。		



## 各地の需給動向

\*前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

- 【東北】 2月生産は前年比96%。当初見込みからは減少となったが、飲用牛乳等の販売低迷(89.6%)により、特定乳製品向販売量が増加(123.8%)した。
- 【関東】 生産は上旬のみ好調であったが、中下旬は寒さの影響もあり伸びず、全体では前年比96.2%にとどまった。寒さ等の影響が飲用牛乳等の販売低迷(94.6%)を招き、その結果特定乳製品向販売量が増加(122.8%)した。
- 【東海】 生産は1月下旬から見て、日量ほぼ横ばいから微増(前年比95.4%)。
- 【近畿、中国、四国】 生産は2月のトレンド並(近畿92.9%、中国96.8%、四国93.4%)。2月は寒さの影響により飲用牛乳等の販売不振(近畿91.5%、中国97.1%、四国95.1%)で、当初設定した低めの計画並み、もしくはそれを更に下回る状況となった。
- 【九州】 生産は堅調を維持し、前年比97.1%。一方で月間を通して飲用牛乳等の販売不振(94.6%)に加え、特定乳製品向けの需要も堅調であり同用途の販売量は増加した(108.5%)。

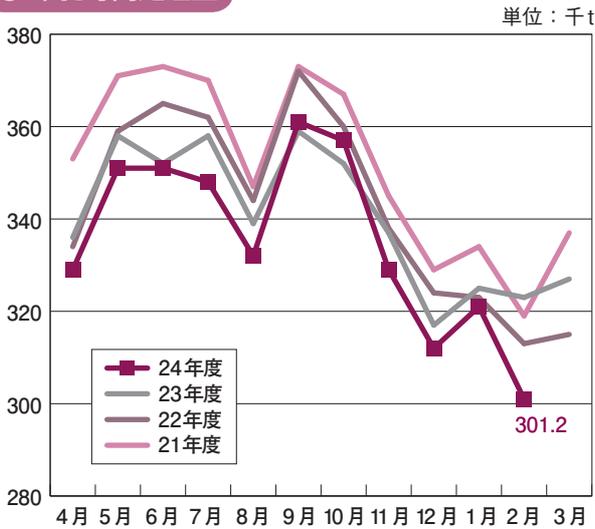
# 用途別生乳処理量

単位：千t

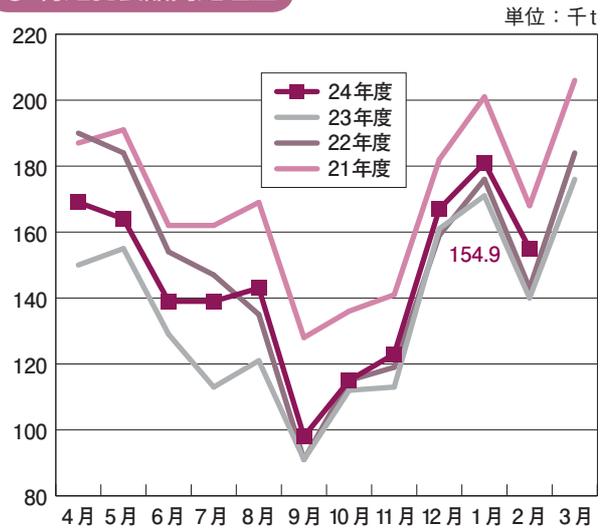
年月	生乳生産量	用途別処理量計							年月	生乳生産量	用途別処理量計						
		牛乳等向 ①	乳製品向				牛乳等向 ①	特 定 乳製品向 ②			その他乳製品向		牛乳等向 ①	特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向		
			特 定 乳製品向 ②	ク リ ャ ム 向 ③	チ ー ズ 向 ④	ク リ ャ ム 向 ③					チ ー ズ 向 ④	ク リ ャ ム 向 ③			チ ー ズ 向 ④		
2011. 4月	629	623	336	288	150	137	99	38	2012. 4月	649	645	329	316	169	147	106	42
5月	662	656	358	298	155	143	103	41	5月	671	667	351	316	164	152	108	45
6月	629	623	352	271	129	142	103	39	6月	642	637	351	286	139	147	106	41
7月	624	618	358	261	113	148	110	38	7月	644	639	348	291	139	153	111	42
8月	615	609	339	270	121	149	111	38	8月	630	625	332	293	143	149	107	43
9月	594	589	359	229	91	138	108	30	9月	604	599	361	238	98	140	106	34
10月	620	614	352	262	112	150	114	36	10月	628	623	357	266	115	151	111	40
11月	602	597	337	261	113	147	111	36	11月	605	600	329	271	123	147	109	39
12月	633	628	317	311	161	150	112	38	12月	632	627	312	315	167	148	108	40
2012. 1月	646	641	325	316	171	145	101	43	2013. 1月	644	639	321	319	181	138	96	42
2月	614	609	323	286	140	146	103	43	2月	595	590	301	289	155	134	96	38
3月	666	661	327	335	176	159	113	46	3月								
年度計	7,534	7,470	4,083	3,387	1,632	1,755	1,288	467	年度計	6,349	6,890	3,390	3,198	1,437	1,473	1,067	405

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

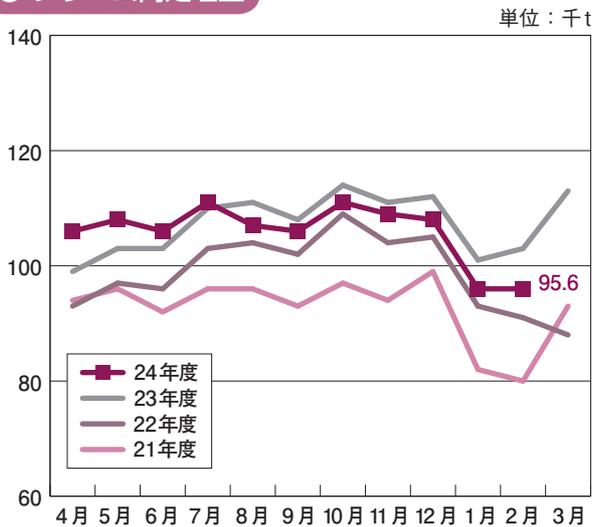
## ① 牛乳等向処理量



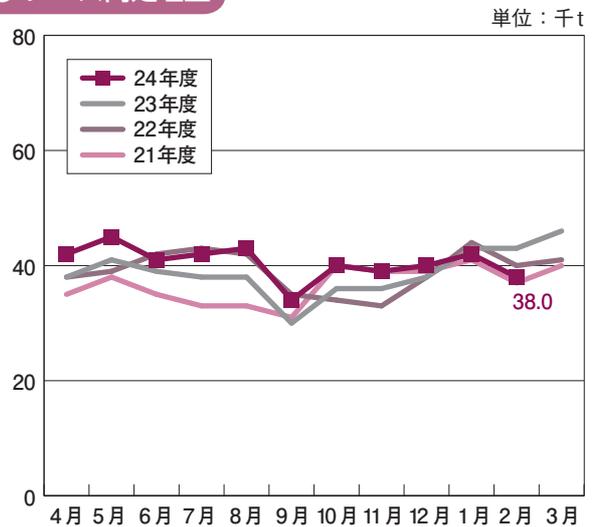
## ② 特定乳製品向処理量



## ③ クリーム向処理量



## ④ チーズ向処理量



## 特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

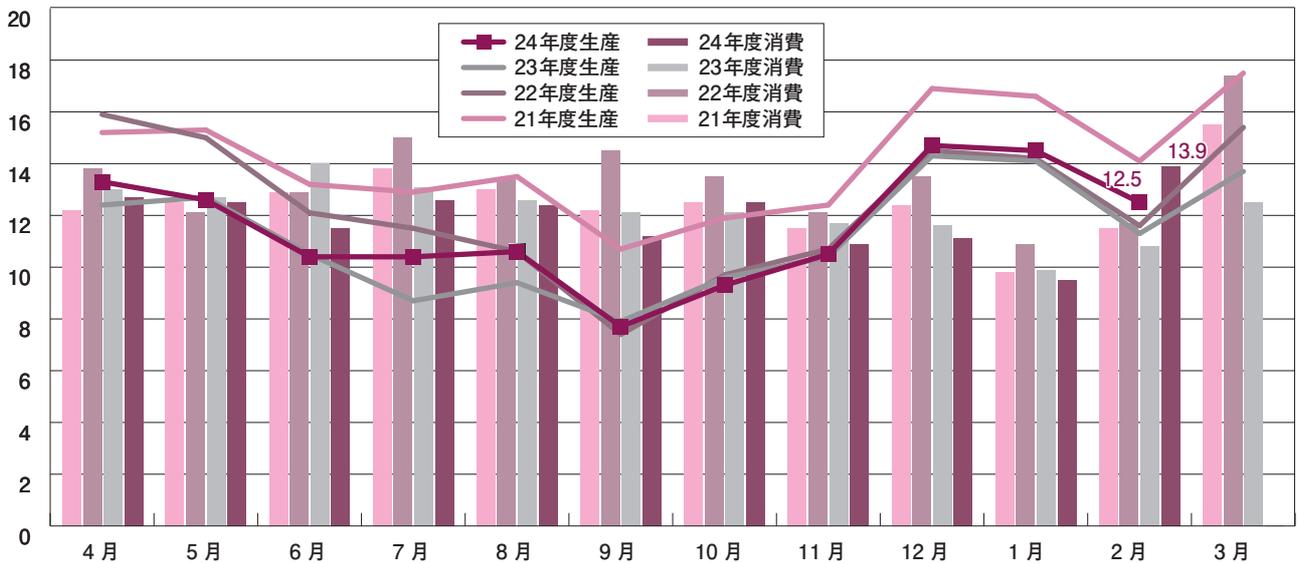
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2011. 4月	12.4	7.8	5.7	5.7	2012. 4月	13.3	12.7	6.7	6.4
5月	12.7	5.8	5.9	7.0	5月	12.6	12.5	6.5	6.4
6月	10.5	6.0	5.0	7.7	6月	10.4	11.5	5.5	6.8
7月	8.7	6.7	4.3	6.9	7月	10.4	12.6	5.4	6.2
8月	9.4	6.4	4.5	6.9	8月	10.6	12.4	5.6	6.0
9月	7.9	6.6	3.5	6.8	9月	7.7	11.2	3.7	5.8
10月	9.6	7.2	4.2	6.3	10月	9.3	12.5	4.3	5.6
11月	10.4	7.7	4.2	5.6	11月	10.5	10.9	4.8	5.7
12月	14.3	9.2	5.8	6.0	12月	14.7	11.1	6.2	7.8
2012. 1月	14.1	5.7	7.0	6.4	2013. 1月	14.5	9.5	7.6	4.8
2月	11.3	7.0	5.7	6.0	2月	12.5	13.9	6.3	6.5
3月	13.7	7.7	7.4	7.9	3月				
年度計	134.9	83.8	63.1	79.2	年度計	126.6	130.9	62.7	67.9

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

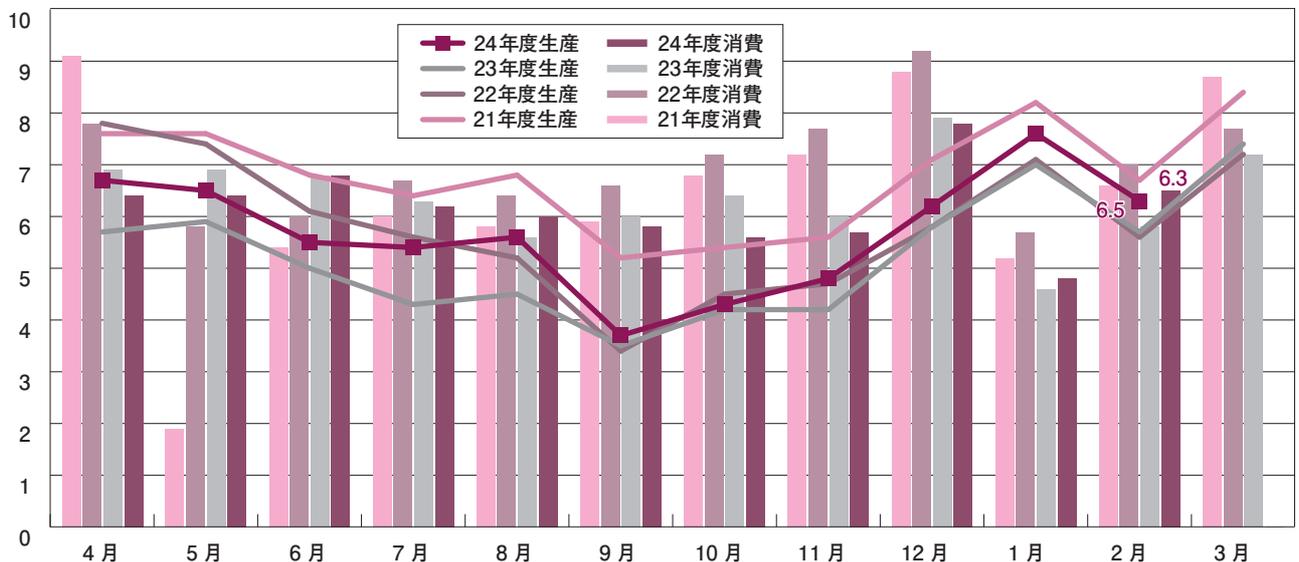
### 脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



### バターの生産及び出回り量推移

単位：千t



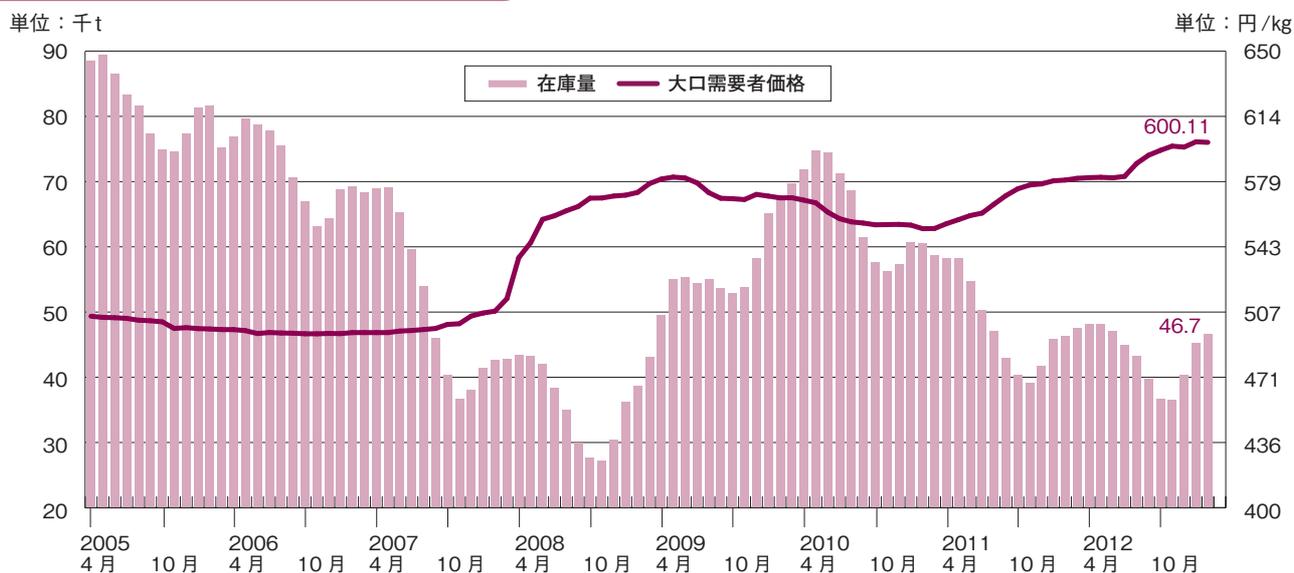
## 脱脂粉乳・バター国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

区分	バター		脱脂粉乳		区分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2011. 4月	19.3	1,018.1	58.2	555.58	2012. 4月	19.4	1,116	48.2	580.80
5月	20.6	1,025.7	58.2	557.75	5月	21.5	1,123	48.2	580.99
6月	21.2	1,035.2	54.7	560.04	6月	21.5	1,132	47.1	580.69
7月	21.0	1,041.9	50.3	561.37	7月	21.5	1,135	44.9	581.49
8月	21.0	1,057.1	47.1	566.25	8月	23.2	1,146	43.2	588.53
9月	20.3	1,066.7	42.9	570.93	9月	22.4	1,154	39.7	593.03
10月	19.7	1,075.2	40.4	574.67	10月	21.3	1,155	36.7	595.73
11月	18.6	1,079.0	39.1	576.76	11月	20.5	1,159	36.6	598.06
12月	16.5	1,083.8	41.8	577.37	12月	19.0	1,161	40.3	597.52
2012. 1月	18.9	1,085.7	45.9	579.05	2013. 1月	21.9	1,166	45.3	600.42
2月	18.9	1,087.6	46.4	579.47	2月	22.2	1,174	46.7	600.11
3月	19.1	1,102.9	47.6	580.42	3月				

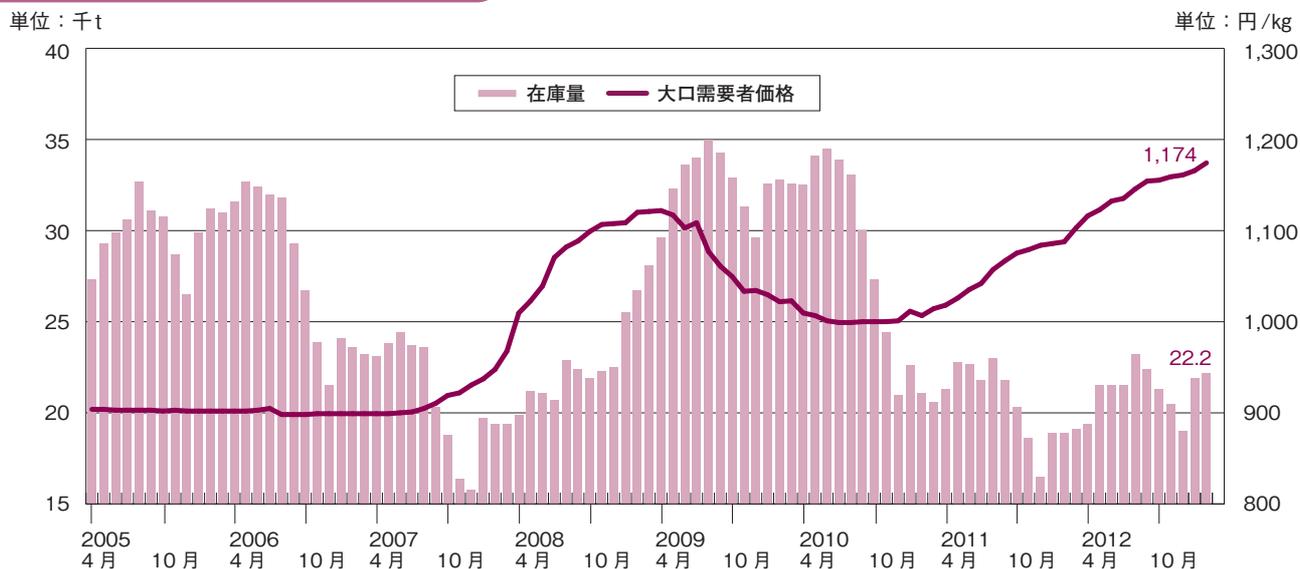
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

※単価は税抜き

### 脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移



### バター 国内在庫・大口需要者価格推移



# 見て歩紀



▲ 笠井主幹研究員とスタッフ

No.239  
大阪府立環境農林水産  
総合研究所  
大阪府羽曳野市

## 研究成果で酪農を支える



研究所正面

### 地域概要

今回は、地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所を訪問し、環境研究部資源環境グループ地方独立行政法人 主幹研究員 笠井浩司氏と飼養環境グループ課長補佐 真柳敦夫氏に事業内容等をお伺いしました。

「大阪府立環境農林水産総合研究所 食とみどりの技術センター」は大阪府羽曳野市にあります。羽曳野市は大阪府の南東、奈良県と県境に位置し、面積約26.44 km<sup>2</sup>で、約11万5千人の人口があります。東部の駒ヶ谷・飛鳥などの丘陵地帯ではブドウの栽培が盛んでワイン作りな



ども行なわれ、また、古墳などの古代史跡の多い土地としても知られており、国宝や国の重要文化財に指定された資料も多数保管されています。

### 沿革

食とみどりの技術センターは大正8年に「大阪府農事試験場」として現在の大阪府交野市に発足しました。その後、昭和38年に府内各地の旧農業試験場、種畜場等を統合し、羽曳野市に「大阪府農林技術センター」として発足。平成14年には大阪府立淡水魚試験場、大阪府立緑化センターと統合し、「大阪府立食とみどりの総合技術センター」に改称。平成19年4月、三機関が統合し、「大阪府環境農林水産総合研究所 食とみどりの技術センター」となり、平成24年4月に地方独立行政法人として新たに発足し、現在に至ります。

施設の目的

食とみどり技術センターの畜産部門は、子牛と家さんの研究を行なう「飼養環境グループ」と搾乳牛や食品系・農産系のバイオマス資源の再利用に関する研究を行なう「資源循環グループ」の2つの研究グループがあります。

「飼養環境グループ」は、平成24年4月に将来の牛乳生産を担う乳牛の改良や大阪の気候・風土に適した後継牛を育成することを目的に新たに発足しました。平成24年11月末より府内の酪農家より受け入れを開始し、現在6頭飼育中です。飼育牛は、あくまでも研究対象であり単なる子牛の育成ではありません。研究対象の個体数の一定程度の確保が望ましく、飼育可能頭数は年間60頭であることから、今後の飼育頭数拡大が望まれます。スタッフは研究員1名、管理作業員2名で構成されています。その日の牛の体調や様子は毎日記録し、スタッフ内で回覧し情報共有に努めています。また、体重・体尺の測定も定期的に行い成長を記録し、ストレスに関する研究のため血液成分等もサンプリングしています。6〜7カ月齢まで飼育後、全酪連経由で北海道に預託します。預託後、府内酪農家にお返しした後も、引き続き乳量や乳質の他、生産性阻



研究対象牛 ▼▲



害要因等を調査していく予定です。

「資源循環グループ」では、現在搾乳牛13頭、育成牛4頭を飼育しています。放牧場も備えており、天気の良い日は繋留ストレスの軽減や運動も兼ねて放牧をされているとのこと。スタッフは、研究員3名、管理作業員3名で構成されています。研究分野は、食品製造副産物の飼料化に関する調査研究や、大阪の気候風土に適した家畜飼養管理技術の確立、バイオマス資源の多段階利用に関する調査研究として有機性廃棄物（竹・木屑・牛糞堆肥など）の燃料化技術の開発と多岐にわ

たります。食品製造副産物の飼料化は、近年注目が集まっているエコフードについての研究を平成20年度より毎年行なっています。大阪府内には食品メーカーが多数ある一方で、大量の食品製造副産物が排出され、大半が産業廃棄物として焼却処理されています。配合飼料の高騰が続く中、府内畜産農家に良質で低価格な飼料を提供することを目指して食品製造副産物の飼料化に取り組んできました。平成20年度は中央卸売市場で発生したニンジン屑を添加した豆腐粕サイレージとして給与試験を行い、平成21年度は梅酒工場から

排出される梅酒漬け梅を乳牛に給与する試験を行いました。平成22年度には食品メーカーから排出される煮豆を、平成23年度には乾燥麵屑（マロニー）を、平成24年度にはそば殻粉末を、それぞれ豆腐粕サイレージに副原料として添加し、乳牛への給与試験を行いました。これらのエコフードは商品化され、府内のいくつかの農家で使われるようになっていますが、まだ販売総量が少ないため、価格面でのメリットが小さいのが現状です。今後、更なるユーザを開拓して販売量を増やし、単価を下げるとともに、新しい素材を検討



搾乳牛舎で状況確認

し、機能性やブランドイメージを付与することも重要です。なお、過去に行なった梅酒漬け梅を肉用牛に給与する試みは、府内肥育農家に広く取り入れられて「大阪ウメビーフ協議会」が設立され、大阪初のブランド牛肉として確立されるまでの成果を得ることが出来ました。一方、バイオマスに関する研究としては、毎日大量に排出される牛糞にオガクズなどを組み合わせて固形化し、燃料とするバイオコークスについての研究を行なっています。



新築哺育牛舎

**利用酪農家の声 (大阪総畜連)**

「今後センターに期待すること」について

独立行政法人に移行し、もうすぐ1年がたちます。

まだ、こういった働きができるのか未知数ですが、研究機関として、都市近郊型畜産の優位性を生かした、エコフィード飼料有効活用技術の確立と低コスト且つ最先端技術による畜産農家へのけん引役を期待したいです。

# 新規就農 経営委譲

## を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報  
または全国農業会議所の全国新規就農相談センターに  
アクセスしてみてください。

### 酪農ヘルパー全国協会



<http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html>

### 全国新規就農相談センター



<http://www.nca.or.jp/Befarmer/index.php>

全酪連のホームページからも  
入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ

↓  
右下リンク

↓  
新規就農情報 [社酪農ヘルパー全国協会]  
新規就農情報 [全国農業会議所]

牛乳は  
低GIの  
優等生!

# 血糖値コントロールで 糖尿病 & 肥満の予防・改善を ～ 今日から実行できる低GI食生活 ～

## GIってご存知ですか？

GI (グリセミック・インデックス) とは食後の血糖値の上昇度合いを示す「血糖上昇指数」のこと。つまり、食品に含まれる糖質の吸収度合いを示します。

カロリーは同じでも、GIが高い食品ほど血糖値が急激に上がり、糖質が吸収されやすくなります。一方GIが低い食品は、血糖値の上昇がゆるやかなので、糖尿病や肥満の予防・改善効果が期待できます。

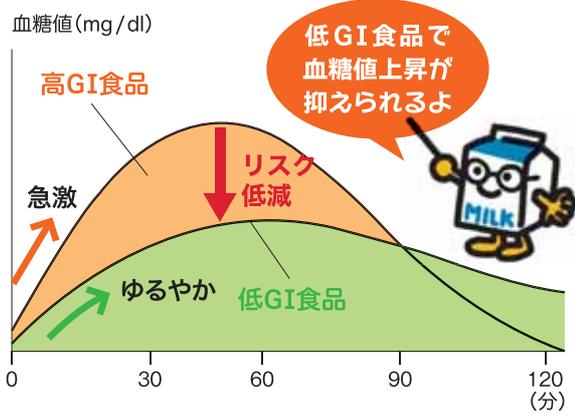
牛乳や乳製品は、低GI食品の代表格。さらに、白米などの高GI食品と一緒に食べると血糖値の上昇を抑えてくれる働きがあります。GIを知って今日からあなたも「低GI食生活」を始めませんか。

主な食品のGI		
低GI食品	中GI食品	高GI食品
<ul style="list-style-type: none"> <li>うどん</li> <li>スパゲッティ</li> <li>ライ麦パン</li> <li>ながいも(生)</li> <li>みかん</li> <li>グレープフルーツ</li> <li>りんご</li> </ul>  <p>そば</p>  <p>ヨーグルト*</p>  <p>牛乳*</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご飯と牛乳(組み合わせ)</li> <li>麦入りご飯</li> <li>酢飯</li> <li>柿</li> <li>パイナップル</li> </ul>  <p>かぼちゃ</p>  <p>玄米</p>  <p>ぶどう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おかゆ</li> <li>餅</li> <li>じゃがいも</li> <li>さといも</li> <li>ようかん</li> <li>せんべい</li> <li>カステラ</li> </ul>  <p>白米ご飯</p>  <p>さつまいも</p>  <p>食パン</p>

この表は各食品を単独で摂取した場合。実際の食事では、食品の組み合わせ等によりGIが変わるため、目安として参考にしてください。

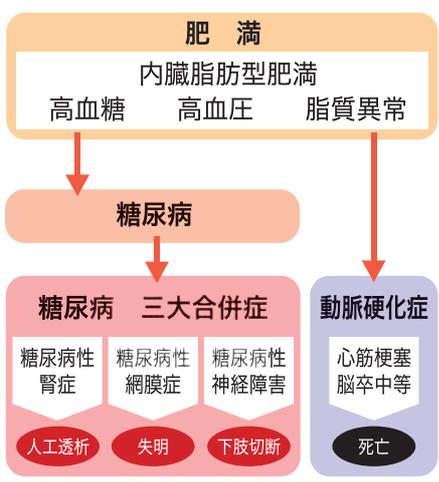
\* Foster-Powell K, Holt SH, Brand-Miller JC. Am J Clin Nutr. 2002;76,5-56 による

## 食後の2時間の血糖値の上がり方



\*糖質量が同じでも食品により血糖値の上昇速度や度合いは異なる。高GI食品は急激に上昇するが、低GI食品は緩やかに上昇

## 生活習慣病の恐れも…



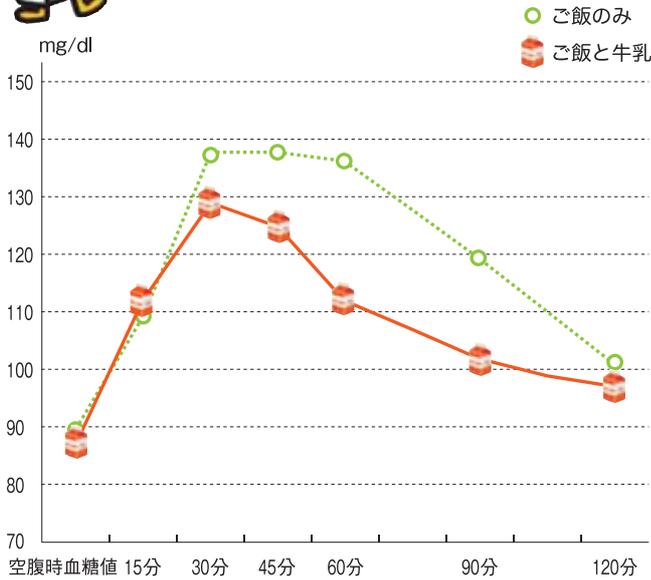
■高血糖のリスク

高GI食品ばかりたくさん摂っていると、内臓脂肪型肥満を誘発し高血糖状態が続きます。それは、糖尿病の発症や悪化を招き、適切な血糖管理がなされないと、最終的には死につながる場合もあります。低GI食品を活用した食生活にスイッチすることが、この流れを止めるカギです。

# 低GI食品の代表「牛乳・乳製品」で **血 糖 値 コ ン ト ロ ー ル**



米飯と牛乳を摂取した場合の血糖曲線



若木陽子ら, 日本健康科学会雑誌, 16(2); 133-142, 2001  
を改変

## 牛乳が血糖値の上昇を抑える

GIは固定されたものではなく、高GI食品でも食品の組み合わせや食方法などで変化します。  
例えば牛乳を食事の中で、コップ半分(100ml)程度飲むだけで血糖値の急激な上昇を抑えられます。  
牛乳や乳製品が低GIなのは、牛乳・乳製品の糖質(乳糖)が分解に時間がかかり、糖質なのに血糖値への影響が少ないからです。  
牛乳は、血糖値の急激な上昇を抑えるほか、他の食品と一緒に食べても全体のGIを下げる機能やインスリンの分泌を良くする働きが、報告されています。牛乳や乳製品を食事に取り入れ、上手に活用しましょう。

### 血糖値の上昇を抑える食事のコツ

#### 食事に牛乳をプラス



食事に牛乳を飲む。お弁当などの外での食事でも手軽に実行できる方法。1日の目安はコップ1~2杯程度で。

#### 調理法の工夫

ご飯の炊き方や麺類のゆで方も、かためにする事で消化が遅くなり、血糖値の上昇を抑えることができます。

#### メニューの工夫

**牛乳・乳製品を組み合わせる**  
味噌汁やカレーに牛乳を入れたり、ヨーグルトをドレッシングやデザートに活用しましょう。



**食物繊維の多い食品を組み合わせる**  
野菜やキノコ類、海藻類などの食物繊維の多い食品をメニューに加える。



#### 食べる順番



ご飯より先にサラダや煮物などの野菜を食べると、食後の血糖値上昇を抑えられます。

#### 調味の工夫

消化を遅くする働きのある酢や柑橘類を調味に使用。

#### 食べ方

ゆっくりよくかんで食べましょう。早食いはGIが高くなります。

#### Check!

肥満や糖尿病の予防・改善に役立つ情報満載!

『低GIレシピ』

監修：林進 / 発行：法研



監修：林 進

(東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 栄養部課長)



社団法人 日本酪農乳業協会  
<http://www.j-milk.jp/>



# 全酪連 酪農セミナー2013 / ワークショップ2013

## 開催のご案内

### “強化” 哺育パートⅢ

～理想的な子牛の哺育システムと長期的な影響～

全酪連は、2013年5月にコーネル大学畜産学部准教授マイク・ヴァンアンバーグ博士を講師に迎え、全国4会場にて、酪農セミナーを開催いたします。前回の“強化” 哺育セミナー(2007年)から5年が経過しました。この間、更に蓄積された情報を整理して紹介する予定です。また、セミナーとは別に、指導者・技術者の皆様のために最先端情報をご紹介するワークショップも開催します。是非ご参加ください。

#### 講師略歴

1984年  
オハイオ州立大学卒  
1995年  
コーネル大学にて博士号取得  
1995-2002年  
コーネル大学畜産学部 助教授  
2002年-現在  
コーネル大学畜産学部 准教授



マイク・ヴァンアンバーグ博士  
(コーネル大学 畜産学部准教授)

#### テーマ

### “強化” 哺育パートⅢ

～理想的な子牛の哺育システムと長期的な影響～

#### セミナー2013

##### 第1章 哺育子牛の栄養と飼養管理技術

- ・この技術の経緯と基本技術
- ・近代までに伝統的に行われてきた栄養と飼養管理
- ・これまでに確立された技術のうち何が優れていて、何が誤っているのか?

##### 第2章 近代的哺育・育成牛の栄養と飼養管理

～すでに NRC や CNCPS に採用されている概念

- ・ターゲット・グロス・システム  
現状の牛群評価方法と到達もしくは設定すべき発育目標
- ・加速発育システム  
発育時期毎の異なる栄養要求(蛋白の分解性)・乳腺発達概念の誤り
- ・“強化” 哺育システム  
理論と実行方法  
NRC2001が成し得た事・次の NRC はどうなる?  
自動哺乳機システムの由来と考え方

##### 第3章 “強化” 哺育の検証

- ・コーネル大学牛群3産目までのデータ検証
- ・健康面への効果/免疫との関連
- ・発育促進による恩恵/初産の月齢や体格
- ・より高い生産性/乳量増加効果
- ・経済性の改善/飼料効率・経費節約ほか
- ・“強化” 哺育に失敗する場合の理由いろいろ

##### 第4章 哺育・育成栄養と飼養管理の将来

- ・最新研究開発情報・新しい栄養要求

#### [特別講演]

国内研究者による研究成果発表

#### ワークショップ2013

##### 第1章 CNCPS の過去・現在・未来

- ・飼料計算プログラムの歴史  
CPM Dairy の成し得たこと、新プログラムに比べて何が遅れているのか?  
飼料計算プログラムに関する現在進行形の事項
- ・CNCPS v.6.1 とそれをベースにする AMTS・NDS の説明  
違いや互換性、実用化のために必要なこと、フィードライブラリーのアップデート

##### 第2章 哺育・育成牛

- ・現在の哺育管理の実情と未来  
最新研究開発の紹介 新しい栄養要求(蛋白質・アミノ酸・エネルギー他)
- ・“強化” 哺育の検証  
最新研究開発データの紹介

##### 第3章 国内研究者による研究成果発表

- ・虚弱子牛の免疫機能改善に関する研究(酪農学園大学・北里大学)
- ・“強化” 哺育を応用した肉用牛の代謝的刷り込み効果に関する研究(九州大学)

#### 日時と場所

5月14日(火)	熊本セミナー	火の国ハイツ
5月15日(水)	神戸セミナー	神戸ポートピアホテル
5月17日(金)	福島セミナー	ビッグパレットふくしま
5月20日(月)	札幌セミナー	ホテル ノースシティ
5月21日(火)	全酪連ワークショップ	ホテル ノースシティ

各会場ともセミナーの開会は 10:00、閉会 16:00 となります  
(但し、ワークショップは、開会 9:30、閉会 15:00 を予定)

#### 対象

酪農家・組合役職員・公的指導機関、あるいは  
研究者・獣医師・コンサルタントの方々

#### 参加費

1名様 ¥5,000 (テキスト・昼食代含む)



新		旧		氏名
■平成25年4月1日付異動発令				
管理部	部長 兼 管理課長	管理部	部長	松窪 俊郎 深井 厚夫 高内 橋正 内藤 晃尚
管理部	副部長 兼 関連事業室長	管理部	関連事業室長	
監査室	室長	指導・企画部	副部長 兼 企画課長 兼 指導組織課長	
指導・企画部	企画課長 兼 指導組織課長	管理部	管理課長	

# 北海道 乳牛産地情報

平成25年4月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765  
釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▼……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	32~35	▲	3月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で100.3%、累計で100.0%、苫小牧管内月計で96.1%、累計で97.8%の実績となっております。4月の初妊牛の動向ですが6月分娩が中心になります。夏乳価等の関係から府県の需要も多いことが予想され、やや強含みの取引になるものと思われます。また、育成牛につきましても夏季放牧ができて、7月から8月授精可能な育成牛を中心に強気の取引になるものと思われます。経産牛は、品質により価格差は大きいと思いますが平均的には横這いで取引されるものと思われます。
	初妊牛	55~60	▲	
	経産牛	40~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~35	→	3月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.4%、累計で101.2%、中標津管内月計で100.5%、累計で101.6%の実績となっております。4月の動向ですが、6月腹中心で動くため3月と同様に高値で取引される予想ですが、高止まり感もあり、上限についてはやや落ち着いた価格帯となるものと思われます。相場的には依然としてF1腹が牛のレベルに左右されることなく高値で動いており、次いでホル選別腹、ホル腹の順となっております。ホル腹については、3月は釧路管内では引き合いが強く、高値で推移しましたが、一時的なものと思われます。今後はメガファームの動き如何によっては、7月上旬の腹まで堅調に動くものと予想されます。
	初妊牛	54~58	▼	
	経産牛	40~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	3月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計100.7%、累計100.7%の実績となっております。4月の初妊牛動向につきまして、6月腹中心となってきますが、荷動きが早く、3月末の時点ですでに6月上旬腹も市場で多く取引されました。このため、4月に入ってから資源の少なくなった6月腹の引き合いが強くなることが予想され、高値で取引されるものと思われます。腹の内容としては依然としてF1腹の需要が多く、次いで選別腹、ホル腹の順となっております。ET腹に関しては非常に高値で取引されており、平均70万円前後で取引されております。
	初妊牛	55~60	▲	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	30~35	→	3月は宗谷管内で吹雪の影響により生乳集荷のできない日があるなど荒れた天候でした。3月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で102.3%、累計で101.6%、北見管内月計で101.9%、累計で101.9%、累計102.2%の実績となっております。3月の初妊牛の価格は高値警戒感から平均価格は弱含みで推移しました。4月の初妊牛動向については、5月腹から6月腹中心になり、荷動きも激しく、初夏分娩までは引き合いが強くなることが予想されます。また、依然としてF1腹の需要が多く、ホル腹については、上物はある程度の高値で取引がなされています。今後は、頭数減と同時に裾物の価格上昇も考えられ、また、道内においては農協により生乳生産量確保のために経産牛の導入に意欲的であり、経産牛価格も強含みで推移していくものと思われます。
	初妊牛	54~58	→	
	経産牛	40~50	▲	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~35	→	道内の3月中旬までの生乳生産量前年比は月計101%、累計で101.4%の実績となっております。4月の初妊牛動向ですが、6月から7月上旬腹となり、夏前に分娩する資源を導入する最後の月となるため、需要は多いことが予想されることから堅調に推移するものと思われます。F1腹が高く、ホル腹が比較的に安値であることから、ホル腹は値ごろ感があるので、ホル腹導入も一度ご検討をお願いいたします。夏前分娩の導入は4月末までなので、日に日に資源が少なくなってくるので、購買の際は早めにご連絡を頂きますようお願いいたします。
	初妊牛	54~59	→	
	経産牛	40~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

## 今月の表紙

早く大きくなってね!

今月の表紙は、「第3回酪農いきいきフォトコンテスト」(第41回全国発表大会にて開催)に応募いただいた作品「早く大きくなってね!」(宮城県 齋藤 祐子氏 撮影)です。生まれたての子牛にミルクを飲ませるお手伝いをしているお子さんと、それを見つめる暖かな眼差しが印象的です。愛情溢れる作品ですね。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼アンケートにご協力いただいた皆様には、心から感謝申し上げます。皆様のご意見を参考に、今後よりよい会報づくりに邁進していく所存です。  
▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

編集後記

平成25年4月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN  
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 4月号 No.571

●編集・発行人 中島 裕志郎

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品介绍

牛といっしょに

福島第二小学校(東北)2年 小林 純愛



**今**月の入選作品は、福島第二小学校(東北)2年の小林 純愛さんの「牛といっしょに」です。

太陽のもと大きな牛さんと一緒に遊ぶ場面を描いた作品です。緑の色紙を使い色彩豊かに表現されています。牛さんの体は白い紙をちぎって形作られ、楽しさが伝わってきます。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第39回らくのうこどもギャラリー」で全国461点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議

# 第42回

主催

全国酪農青年女性会議 / 全国酪農業協同組合連合会

# 全国酪農青年女性 酪農発表大会

in 熊本



©2010 kumamoto pref. kumamon#7822

平成25年

7.11 木 ▶ 12 金

## 日程

7月11日

- 13:00~13:55 開会式
- 14:00~16:15 酪農経営発表
- 16:15~16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式
- 16:40~18:15 酪農意見・体験発表
- 19:00~21:00 懇親会

7月12日

- 8:30~ 9:00 酪農経営発表質疑応答
- 9:00~ 9:30 酪農意見・体験発表質疑応答
- 9:45~11:10 審査講評・表彰式
- 11:10~11:30 閉会式

## 大会参加費

1名 13,000円 (大会・懇親会まで)

※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

## 大会会場

[会場]

ホテル日航熊本

〒860-8536 熊本市中央区上通町2-1  
TEL 096-211-1111



[宿泊]

ホテル日航熊本 又は 熊本ホテルキャッスル

- ホテル日航熊本  
〒860-8536 熊本市中央区上通町2-1 TEL 096-211-1111
- 熊本ホテルキャッスル  
〒860-8565 熊本市中央区城東町4-2 TEL 096-326-3311



## アクセス

- 熊本空港(阿蘇くまもと)より車で約40分
- JR鹿兒島本線「熊本駅」から市電通町筋駅、下車。徒歩約1分。
- 九州自動車道 熊本ICより約30分